

講義名	心理学実験演習				
担当教員	綱直 優子 / 福田 哲也 / 吉村 典子 / 池田 曜子				
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1 時限 / 後期 金曜日 2 時限		授業形態	演習	
履修開始年次	2 年生	単位数	4	備考	
主題と概要					
心理学は、観察、実験、調査、面接から得られたデータを分析することによって、人間の心理・行動を議論する。この授業では、実験、観察、調査を実際に行い、それらの報告書である心理学実験レポートの作成を学習する。 第1課題は、錯覚の一種であるミュラーリヤーの錯視の実験である。ミュラーリヤーの錯視は長さの錯覚であるが、実験に使用される矢羽の角度によって、この錯覚がどのように変化するかを測定する。 この課題から、実験室実験の論理を学ぶ。 第2課題は、第2課対人関係に関する実験を行い、その継続性の有無が協力行動に及ぼす影響を検討する。この課題から、実験室実験の内容をどの程度日常生活にあてはめられるのかという研究の外的妥当性の考え方を学ぶ。 第3課題は、観察法を用いた調査である。私たちは、常にその場にいる人の表情や行動を解釈することから、関係性や心理状態を推測している。本課題では、観察法という研究の基本と、行動観察によるデータの収集と分析、およびレポート作成について、実際にフィールドワークを経験することによって学ぶ。 第4課題は、鏡に映った図形を見ながらなぞる鏡像描写を題材にし、知覚運動系協同の成立過程を確認する。また、片方の手での練習がもう片方の手の運動に効果があるのかを確認し、両側性転移について考察する。 第5課題は、印象評価測定の調査である。化粧品に用いる色によって人の印象はどのように変わるかについて実際に調査を行っていく。 第6課題は、認知的干渉（ストループ効果）を行う。たとえば、「きいろ」と赤字で書かれた色の発語は、単純に赤色をみた場合より時間がかかる。この現象をストループ効果という。ストループ効果の実験を通して、認知的干渉について考察し、心理学実験の基礎を学ぶ。					
到達目標					
心理学的現象を科学的に証明するための実験・調査手法を理解することができるようになる。 実験・調査のデータが分析できるようになる。 Excel を使用し、表やグラフを作成することができるようになる。 実験や調査結果をもとに報告書を作成することができるようになる。					
提出課題					
授業中におこなった実験・調査に関する報告書を最終レポートとして提出してもらう。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
レポートとして提出された実験・調査に関する報告書は添削し、修正点等のフィードバックが行われる。					
評価の基準					
受講内での実験取り組みの態度や理解度（50％） 最終レポート(50％)					
履修にあたっての注意・助言他					
毎回の出席と6種類の実験のレポート作成が必須となる。 1回でも欠席するとレポートの作成が困難になり単位取得ができない可能性がある。 なお、この科目は認定心理士資格取得の必修科目である。 資格申請時には、実習リストの提出が求められる。 また、対面授業が困難となった場合は、講義連絡を通じて変更の指示を行う。					

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
プリント資料を授業中に配付				
授業計画				
1 実験レポートの書き方とミュラーリヤーの錯視に関する講義 / 実験の実施（担当：福田） 2 実験データの分析 / 実験レポートの作成（ ）（担当：福田） 3 実験レポートの作成（ ） / 対人関係に関する実験の実施（担当：福田） 4 対人関係に関する講義 / 実験データの分析（担当：福田） 5 実験レポートの作成（ ） / 実験レポートの作成（ ）（担当：福田） 6 鏡像描写実験の説明 / 実験の実施（担当：吉村） 7 実験データの分析 / 実験レポートの作成（ ）（担当：吉村） 8 ストループ効果実験の説明 / 実験の実施（担当：吉村） 9 実験データの整理 / 実験データの分析（担当：吉村） 10 実験レポートの作成（ ） / 実験レポートの作成（ ）（担当：吉村） 11 調査「印象評価」の理解と評価用紙の作成 / 印象評価調査とデータの入力（担当：鍋直） 12 データ解析と結果の整理 / データ解析結果の理解と結果の記述（担当：鍋直） 13 レポート作成について（担当：鍋直） / 心理学研究方法としての観察法の特徴（担当：池田） 14 観察調査 / 調査データの入力（担当：池田） 15 調査データの分析 / 調査レポート作成（担当：池田）				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
当科目は6種類の実験・調査・観察を受講生が実際に行うものである。そのため、毎回新しい内容に取り組み際には、必要な資料が配付され、その課題について説明がおこなわれる。配付された資料を受講回までに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと。（2時間） 毎講義に必要な資料が配付され、説明がなされ、課題が出されることとなる。 毎回受講後はその資料をもとに講義内で指示のあった部分について次の講義までに作業を完成させることが重要な復習となる。（2時間） 詳細は、授業内に各担当教員から指示・説明があるのでそれに従うこと。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
目標	を達成することで、DP の「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。			
目標	は、より良い人間社会を創造することには直接的には貢献しない。			
目標	を達成することで、DP の「人間の社会生活活動、ビジネスに実質的に活用することができる能力となる。			
目標の	を達成することで、DP の「心理学の研究法に関する基礎的知識」を身につけ、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
双方向授業は実施しない。				
実務経験の有無及び活用				
備考				
対面授業が困難となった場合は、講義連絡を通じて変更の指示を行います。				